

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
76	川崎市立富士見台小学校	中川 正彦

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
個性輝く豊かな人間性を培い たくましく生きる子の育成 ～やさしく かしく たくましく～	(1) 人権尊重教育を基盤とした教育の実践 (2) 子供を主体とした授業の実践 (3) 安全・安心な環境の整備

評価項目	具体的な取組	成果(○)と課題(☆)	具体的な改善策
1 豊かな心の育成 ～やさしく～	1. 共生する力の育成 ○いじめ・不登校など未然防止と安全・安心に過ごせる学校 ○互いの個性を認め合える学校・学級づくり 2. ニーズに応じた力の育成 ○外部機関とも連携を図った教育相談 ○一人一人に合わせた支援教育(国際理解教育含む) 3. 協働する力の育成 ○子供が主体の委員会活動 ○リーダーシップを育み、他学年との交流ができるクラブ活動・異学年交流 4. 規範意識の育成 ○安全・安心に学校生活を送れるふじみっ子の約束作	○学校生活アンケート(年2回)を実施し、実態を把握することで、人間関係を大切に学級づくりに生かした。 ○「かわさき共生＊共育プログラム」やSSTを取り入れてより良い関係づくりに努めた。 ○自分の役割に責任をもち、係活動や委員会活動に参加できる子供が多かった。 ○クラブ活動や異学年交流で、活動内容を計画する力が育ち、他学年との交流を楽しむ姿が見られた。 ☆他者意識、人間関係を深めていく必要がある。 ☆交流内容や、交流による子供の成長が保護者や地域に十分に伝わっていない。 ☆ふじみっ子の約束が守られているかどうか、子供たち	①一人一人の子供との対話を心がける。 ②相手に自分の気持ちを伝えることができるよう、心の育成を図る。 ③保護者と子供の様子を共有し、指導にいかす。 ④「ふじみっ子の約束」の内容や、守れているかどうかを、子供自身が確認できるようにする。 ⑤交流の様子が、家庭や地域にも伝わるように発信していく。
2 確かな学力の育成 ～かしく～	1. 個別最適な学びの充実 ○GIGA端末を活用した学びの推進 ○学習環境の整備 2. 協働的な学びの充実 ○校内研究の推進 ○年間指導計画、単元配列表の作成	○GIGA端末を日常的に活用し、一人一人の課題に応じた取組や、互いの考えの共有ができた。 ○学校掲示板を活用し、それぞれの学年の取組等を視覚化した。多くの子供の目に触れることで、意欲的に活動できるようになった。 ○校内研究を通じて、互いに学び合い高め合う姿が育った。 ☆低学年から高学年までのGIGA端末の活用方法について、発達段階に合わせて見直す必要がある。 ☆行事などの精選を行い、年間指導計画に反映させ	①GIGA端末のきまりの周知、SNSトラブル防止に関する授業を、学年の実態に合わせて行う。 ②GIGA端末の効果的な活用方法について、検討を進める。 ③学校行事や学年の取り組みについて、教科横断的な学習展開ができるように見直しをする。
3 健やかな心身の育成 ～たくましく～	1. 健康な体づくり ○運動機会の確保 ○保健指導 ○食育指導 2. 安全に行動する力の育成 ○防災・防犯教育 ○下校指導	○養護教諭による保健指導、栄養教諭による食育の指導などを通じて、健康な体作りの大切さについて理解が進んだ。 ○防火扉や落下物の回避、予告なし避難訓練を実施し、災害時に身を守る方法が身についた。 ○消防署職員を招いて職員研修を行い、防災についての職員の理解が深まった。 ○職員による下校指導研修が、緊急時に役立った。 ☆生活習慣の取組を家庭と共有していくことが必要である。	①生活習慣についての意識を高めるため、全校指導に加えて、学級での指導を充実させる。 ②校舎再生整備工事の影響で校庭が狭くなることに合わせ、運動できる場所や時間、用具の工夫をする。 ③有事に備えるため、緊急時引取や不審者対応においてはマニュアルをもとに子供への指導、職員研修を一層進める。

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
・学校評価アンケートで、保護者、子供、教職員による差異の大きい項目について、学校での取組が始まっていることが、評価された。 ・校舎再生整備工事による校庭使用制限がある中で、実施方法を工夫して運動会などを行ったことが、評価された。 ・地域行事への学校の協力について、感謝の言葉があった。 ・不登校支援として、地域の子供の居場所の必要性について、意見があった。	「やさしく」については、「ふじみっ子の約束が守られているかどうか」と「不安や悩みを学校に相談できているかどうか」の項目について、保護者・子供と教職員の受け止めの差異が大きかった。子供自身が学校の約束を考えていく取組や、子供の様子を保護者と共有できる体制を充実させる必要がある。 「かしく」については、GIGA端末の活用により学習内容の理解に深まりがある一方、情報モラル教育を推進する必要がある。「たくましく」については、健康な体作りや災害時に身を守る方法についての子供たちの理解が進んだ。一方、理解したことを実践する機会を増やす必要がある。